

分担研究報告書

新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（遠隔対応）の実施と 受講者からの意見や評価

研究代表者 大阪公立大学大学院生活学研究科食栄養学分野 由田 克士
研究分担者 千葉県立保健医療大学健康科学部栄養学科 荒井 裕介
研究分担者 金沢大学医薬保健研究域保健学系看護科学領域 岡本 理恵
研究分担者 静岡県立大学食品栄養科学部栄養生命科学科 串田 修
研究分担者 青森県立保健大学健康科学部栄養学科 小山 達也
研究分担者 愛知県瀬戸保健所 澁谷いづみ
研究分担者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 田中 和美
研究協力者 神奈川県立保健福祉大学栄養学科 飯田 綾香
研究協力者 新潟県南魚沼地域振興局健康福祉環境部 磯部 澄枝
研究協力者 兵庫県健康福祉部健康局 諸岡 歩
研究協力者 静岡県健康福祉部健康局健康政策課 赤堀 摩耶

研究要旨

本研究班として、従前までにこれまでに取り組んできた対面による試行研修会を基にして、①主として離島や都道府県庁所在地から離れた遠隔地で勤務する者、②いわゆる1人職種1人配置の自治体栄養士を対応とした、遠隔対応による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会を企画・実施した。

受講者から寄せられた事後アンケートの結果によると、研修プログラムの内容や遠隔による研修会の実施に関しては、概ね受け入れられていると評価された。しかし、今回の参加者は、何れも自由意志により参加した者に限られているため、参加申込みの段階から一定以上の向上心や危機感、あるいは、高い意識を有する者ばかりであった可能性がある。

遠隔方式の研修は、事前の準備や研修時間中の環境のコントロールが必要であること、機器や通信トラブルに対する備えが必要であることなど特有の対応が必要となる。しかし、離島や遠隔地に勤務する自治体栄養士にとっては、受講に要する移動時間や費用の軽減に加え、遠隔であっても、講師や他の受講者を身近に感じることが出来るなど、メリットも大きいと考えられる。研修の目的や内容あるいは主たる対象者に応じ、対面方式と遠隔方式の両者をうまく組み合わせながら、長所を最大限引き出す研修会の企画が求められる。

A.研究目的

本研究班として、これまでに取り組んできた文献レビュー、都道府県・保健所設置市・特別区の主管部局や自治体に勤務する栄養士個人を対象とした調査・分析、関連の意見交換、対面による試行研修会を基にして、①主として離島や都道府県庁所在地から離れた遠隔地で勤務する者、②いわゆる1人職種1人配置の自治体栄養士を対応とした、遠隔対応による新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会を企画・実施した。受講者からの意見や評価を得て、この種の方式による基本的なプログラムの進め方を検証した。

B.研究方法

(1)試行研修会（遠隔対応）の開催周知

2023(令和5)年3月4日に本試行研修会（遠隔対応）を実施することにした。事前に参加者を募集する段階で、参加希望者が予定の定員(35名)を超えた場合には、次の①②に該当する者が優先的に参加できることを明示した。①離島の市町村や保健所に勤務している者、ならびに、都道府県庁所在地に移動するため最も速達な手段を用いても陸路で概ね2時間以上を要する市町村（保健所設置市を除く）や保健所に勤務している者。②現在勤務している市町村もしくは保健所における管理栄養士等の配置が1人のみである場

合。これは、この試行研修会が①②に該当するものを主たる参加者として企画していることを事前に告知することを意図したものである。

参考1に研究班独自のホームページ上に掲載した募集要項を示す。あわせて、職能団体や行政栄養士に関連したメーリングリストなども活用し情報を拡散した。

(2) グループワークに際しての班分け

本研修会中に2回のグループワークを設定した。その際の班分けは、参加者における現在の勤務先と勤務歴(参加申込時に把握)に応じ、表1に示す6つの班とした。

(3) 事前課題

対面方式での試行研修会と同様に、事前課題として、1) 振り返りシート、2) キャリアシート、の書式ファイルを送付し、研修会前までに完成させて置くことを求めた。また、必要に応じ、3) 経験振り返りシートも活用してよいこととした(書式は対面方式での試行研修会の内容と同じ)。

(4) タイムスケジュール・進行

予め、表2に示すタイムスケジュールを作成し、これに沿って研修を進めた。全体の進行、講演・情報提供、グループワーク時のファシリテーターは、研究班員が務めた。これとは別に厚生労働省健康局栄養指導室担当官(栄養指導室長補佐、栄養指導室主査)からも、挨拶、指定発言、コメント等を依頼した。

(5) 講演ならびに関連情報の提供時に用いたプレゼンテーション資料

講演 I と関連情報の提供、講演 II の際に用いたプレゼンテーション資料は、別紙資料に示すとおりである。

(6) 試行研修会終了後にアンケート調査

研修会終了後における参加者からの評価・意見を把握するためのアンケート調査を実施した。

C. 研究結果

(1) 参加者数

35名の定員対して、全国から34名の事前申込みがあった。しかし、当日になって、うち2名より、何らかの理由により、参加できない旨の連絡を受けたため、最終的に参加した者は32名であった。

(2) 試行研修会(遠隔対応)の実施状況

概ね事前に設定したタイムスケジュール(表2)に添った対応で進行した。

(3) 参加者からの評価・意見

各プログラムについて、5件法(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:これらから

1つを選択)で評価を得ると共に自由記載で意見を把握した。具体的には次のとおりである。

○1. 講演 I + 関連情報の提供について

参加者 32 人中、30 人から回答が得られ、非常に参考になった 16 人(53.3%)、参考になった 14 人(46.7%)であった。

○2. 講演 I + 関連情報の提供についての意見(自由記載)

別記 1 に示した。

○3. グループワーク①について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者 32 人中、30 人から回答が得られ、非常に参考になった 18 人(60.0%)・参考になった 12 人(40.0%)であった。

○4. グループワーク①についての意見(自由記載)

別記 2 に示した。

○5. 講演 II「組織と仕事の進め方」について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者 32 人中、30 人から回答が得られ、非常に参考になった 17 人(56.7%)・参考になった 13 人(43.3%)であった。

○6. 講演 II「組織と仕事の進め方」についての意見(自由記載)

別記 3 に示した。

○7. グループワーク②について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者 32 人中、30 人から回答が得られ、非常に参考になった 18 人(60.0%)・参考になった 11 人(36.7%)・どちらでもない 1 人(3.3%)であった。

○8. グループワーク②についての意見(自由記載)

別記 4 に示した。

○9. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方について(非常に参考になった・参考になった・どちらでもない・あまり参考にならなかった・全く参考にならなかった:1つ選択)

参加者 32 人中、30 人から回答が得られ、非常に参考になった 15 人(50.0%)・参考になった 14 人(46.7%)・どちらでもない 1 人(3.3%)であった。

○10. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方についての意見(自由記載)

別記 5 に示した。

○11. 本研修会へ意見や改善点等、自由にお書

き下さい(自由記載)

別記6に示した。

なし

D. 考察

本研究班として、これまでに試行してきた新しい自治体栄養士養成プログラムを遠隔方式で企画し、実施した。

受講者より事後に得られた評価や意見・感想を確認する範囲では、研修プログラムの内容や遠隔による研修会の実施に関しては、概ね受け入れられていると評価できる。しかし、今回の参加者は、何れも募集によって参加した者に限られていることから、以前より、一定以上の向上心や危機感、あるいは、高い意識を有する者ばかりであった可能性がある。このため、仮に特定の自治体が所属するすべての管理栄養士等に対してこの種の研修会を受講させた場合には、異なる評価や意見・感想が寄せられる可能性がある。今後、検証する必要がある。

遠隔方式の研修は、事前の準備や研修時間中の遠隔環境のコントロールが必要であること、機器や通信ドラブルに対する備えが必要であること等、対面の研修に比べ特有の異なる対応が必要となる。しかし、今回の参加者のような、離島や遠隔地に勤務する自治体栄養士にとっては、受講に要する移動時間や費用の軽減に加え、遠く離れていても、講師や他の受講者を身近に感じることが出来るなど、メリットも大きいと考えられる。

一方で、対面による研修にも、遠隔研修では得られないような、微妙なニュアンスのやり取り、講師や他の受講者と直接肉声で会話できる親近感などがある。これらのことから、今後展開して行くのであろうすべてのプログラムを遠隔対応で実施するというのではなく、研修の目的や内容あるいは主たる対象者に応じ、両者をうまく組み合わせながら、長所を最大限引き出せるような研修会の企画が必要なのであろう。

E. 結論

本研究班として、従前に試行してきた新しい自治体栄養士養成プログラムを遠隔方式で企画・実施した事後に受講者より得られた評価や意見・感想を確認する範囲においては、当該研修会の目的や実施内容は、概ね受講者に受け入れられ、達成出来たと考えられる。

F. 研究発表

(1) 論文発表

なし

(2) 学会発表

G. 知的所有権の取得状況

(1) 特許取得

なし

(2) 実用新案登録

なし

(3) その他

なし

表1 グループワークに際しての班分け

班	構成員数(人)	構成員の特性
1	7	保健所に勤務する勤務歴2～6年の者
2	5	保健所に勤務する勤務歴2～4年の者
3	4	保健所・衛生主管部局に勤務する勤務歴9～26年の者
4	6	市(保健所設置市を除く)町村に勤務する勤務歴1年以内の者
5	4	市(保健所設置市を除く)町村に勤務する勤務歴2～8年の者
6	6	市(保健所設置市を除く)町村に勤務する勤務歴14～32年の者
合計	32	

表2 新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会（遠隔対応）タイムスケジュール

時間	内容	担当	備考
13:00～	受付開始	遠隔研修運営会社	
13:15 13:30 (15分)	開会・挨拶・オリエンテーション	進行：由田 挨拶：厚労省 担当補佐(栄養の主流化について) ※資料確認、各担当者紹介、本日の流れ	
13:30～ 13:50 (20分)	講演Ⅰ＋関連情報の提供 ・「新しい自治体栄養士養成プログラム～経験年数に応じて身につけたいこと～」・関連情報の提供	由田（講演）・荒井（関連情報の提供）	
13:50～ 14:45 (55分)	グループワーク① 「日頃の業務で困っていること」 ※キャリアシート	GW 30分 発表 3分×5G 助言 10分 ファシリテーター：諸岡、磯部、赤堀、串田、小山、荒井と由田	適宜、参加している班員・研究協力者もオブザーブする。
14:45～ 15:00 (15分)	休憩（15分）		
15:00～ 15:20 (20分)	講演Ⅱ 「組織と仕事の進め方」	講師：田中	
15:20～ 16:15 (55分)	グループワーク②「今後どのような働き方をしたいか」・発表 ※年表＋キャリアシート	GW 40分 発表 3分×5G ファシリテーター：諸岡、磯部、赤堀、串田、小山、荒井と由田	適宜、参加している班員・研究協力者もオブザーブする。
16:15～ 16:25 (10分)	厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方	講師：厚労省 担当主査	
16:25～ 16:40 (15分)	参加者への励ましとまとめ	班員・研究協力者・可能であれば厚労省より一言	
	閉会	※アンケート記入依頼	

別記1. 講演I + 関連情報の提供についての意見（自由記載）

- ・栄養士会の実務研修会をはじめ、研修を受ける機会が多くなっているの、初めて聞く話では無かったということ、力を入れている研修ですが、全員が受けているわけでは無いということ、難しさを改めて感じました。
- ・別の研修会でもお聞きした内容ではありましたが、日々勉強をし続けることが大切なんだと思いました。
- ・やはり今までの研修ばかりでなく外の研修が必要と分かり今後そのような機会があれば積極的に参加したいと思いました。
- ・栄養の主流化がキーワードになることについて、行政栄養士の使命感、責任感をあらためて感じ、周りにも周知していきたいと思った
- ・栄養の主流化のために、栄養の分野だけでなく、他職種連携は不可欠だと再認識しました。
- ・何度聴いても身が引き締まる思いでいっぱいです。ありがとうございました。
- ・行政の栄養士は、真面目ではあるが忙しくしているけど何やっているかわからない。まさにその通りだと感じる。今後中堅期の栄養士の育成プログラムができると大変ありがたい。
- ・今回の講習会の掴みとして、引き込まれきっかけになったように思います。学びたいという気持ちになれたので、頭に入って来やすくなりました。
- ・今後も最新情報の提供機会を頂けると幸いです。
- ・今後研修会にもっと参加しようと思いました。
- ・参考文献なども学ぶことができた。
- ・事前学習を行うことで課題整理ができた
- ・自己肯定感アップのために、研修会への参加やチャレンジできることには何でも取り組んでみようと感じた。
- ・自治体栄養士の目指す職位について参考になった。
- ・自信の無さは、性格による思っていた。なりたい姿を持ち、身に付けるべき能力を学ぶ事が必要とわかった。
- ・従来の研修、新しい研修、自己効力感を高める研修という整理の仕方がとても分かりやすかった。
- ・保健部門とそれ以外の部門との体系的な連携について、目指す職位により、スキルアップの内容は異なるという点が気付きとなりました。今後の働き方、目指す姿という部分が曖昧なままで、自己研鑽という部分からも逃げてしまっていたので、これから目指す自分の姿を明確にした上で、日々の業務や研修会等に参加して、スキルアップを目指していきたいと思いました。

別記2. グループワーク①についての意見（自由記載）

- ・1人配置により困っていることとして、アンサーを求めているのではなく、自分のやっていることへの共感？、「それでいいんだよ」、と言ってくれるだけでいい、と言った意見があがったが、言語化できない不安な気持ちに名前がついたようで、そうだそうだと同意できた。不安がはっきりしてきたので、これからの対処がしやすくなった。
- ・別の研修にも参加させていただきましたが、以前の研修よりもより濃いディスカッションが出来たと感じております。ありがとうございました。
- ・〇グループは、ほとんどの方が後輩の栄養士の育成などで悩んだりしていることがわかりほっとした。また職場でのストレスが発散できた。
- ・「相談相手がない」「相談しにくい」と思って閉じこもっている状況は、逆に考えると、周りに情報提供したり声かけをする側でも1人失っている状況になっていることだと思います。管内施設にもよく「〇〇の事例が欲しい」としか意見しない方がいます。事例が欲しいのは誰もが同じだと思いますが、情報を発信しない人には情報も集まらないと思っています。事例が欲しければ自分が事例提供者になるくらいの覚悟が必要で（WIN-WIN関係）、「自分にとって」冒険的な業務を自らやってみるチャレンジ精神も必要だと考えています。一人配置の行政栄養

士でいうと、「事例」は難しく先駆的で素晴らしいことだけでなく、「これをやってみてよかった」「これは難しく大変だった」等の小さなことでも情報共有しようとするアクションが大切だと改めて感じました。一人職種一人配置は自分ひとりで業務をこなさなくては行けないプレッシャーもあり確かに大変ですが、その状況を推進力に変えられた瞬間を見逃さなければ少なくとも孤独感を感じないと思いますし、他者からの賞賛よりも自分で感じ取った成功体験が一番の自信につながると思います。

- ・どこの市町村も似たようなことが課題となっていることがわかった。
- ・グループワークの議題について事前課題内容と差異があるように感じた。もう少しグループ全員で話し合う時間が欲しかった。
- ・各市町村の様子を知ることができました。
- ・頑張ってる若い人たちがいることに感激しました。
- ・行政栄養士の経験年数が近い人達のグループ分けをしていただいたことで、似た悩みを共有でき、それぞれどういう気持ちで、どのように対処しているかを共有できたのがありがたかったです。
- ・困りごとの共有ができました。時間の関係で、ディスカッションまで至らず、課題解決のヒントや参考の情報がもう少しほしかったです。
- ・職位や業務がそれぞれ違いはあれど、不安になることは似ていた。今後も1人職場が続くこともかんがえられるので、今回、どれだけ頑張るかが大切と思った。
- ・他地域の栄養士さんの話がきけたこと、アドバイスをいただくことができたのが良かったです。
- ・他府県の栄養士の方と、意見交換をすることができ、困っていることが同じで、共有することができて嬉しかったです。
- ・同規模ではないですが各県市町村での悩みは同じような感じであったと思いました。今後の参考になりました。
- ・同年代の立場の方々だったので悩みに共感でき、自分の悩みが大事な悩みなのだと分かった。時間を割いて、考える必要があることだと思った。
- ・入庁してからの年数が似たもの同士であったので、共感できるポイントがたくさんありました。もう少し、時間が欲しかったです。内容についてもっと深掘りして聞きたかったです。悩み発表→そうなんや！一緒や、私は恵まれてる！ で思って終わってしまうのが少しもったいないと思いました。時間がないのでなんとも言えませんが、この悩みの対処法方をみんなで考えられたりすると、成功体験が聞けたり、実践に繋がるなあと思いました。
- ・悩みを抱えながら、不安を感じながら業務を行っているのは自分だけではないんだということを知ることができました。
- ・悩んでいることは同じと思った。自分の組織だけでなくこのような研修でも共有できることがわかった
- ・発表するテーマについて、予め各人が内容を考えて発表出来る体制にしておければ更にスムーズに意見交換が進むと思いました。

別記3. グループワーク②についての意見（自由記載）

- ・組織について理解でき、今後必要なことが見えてきました。
- ・管理栄養士としての知識だけでなく、様々な領域にアンテナを張る必要があると思っておりませんが、なかなか時間が割けず手が回らない状況もあり葛藤していたところでした。そんな中、様々な知識や情報をご提供くださるので大変勉強させていただいております。ありがとうございます。
- ・もう少しお時間を頂き多くの内容をご教示頂けるとありがたいです。
- ・これから、キャリアを重ねる上で交渉力や人材育成のスキルも身につけながら、管理栄養士の業務の可視化に努めたいと思いました。

- ・人に合わせてばかりいたので、今後は、自分も相手も大切にしていきたい。また、小さな交渉を積み重ねることで、業務で活かしていきたい。
- ・今年度、他の研修会で計画的偶発性理論の講義をお聞きし、腑に落ちた感覚がありとても救われました。辛いことがあると周りや過去と比較しがちですが、人材育成の主人公はあくまで本人であるので、自身のおかれている状況はともかく、自身のキャリアは自身が一番責任をもって考える必要があると思います。また、「辛い」「困っている」「しんどい」「失敗した」「不安」などのネガティブな気持ちは、あって当然な感情だとして丸ごと受け入れることが自己成長に大切だと考えています。業務においてもキャリアにおいても共通して言えることですが、先輩や上司に意見を聞いたり助言をもらったとしても、結局は「自分がどうしたいのか・どう進めたいのか」、その主体性がすべてだと思います。
- ・組織の中での自分の立ち位置、スキルアップの方法とても勉強になりました。
- ・パワポ資料が欲しかったです。いい話なので、メモっていたのですが、メモが追いつかないところもありました。好奇心、持続性、楽観性、柔軟性、冒険心を忘れずにしていこうと思いました。また、一番印象に残っている「起きたことを最大限に活用する」については、今の状態になったのには意味がある、何に繋がれるのか、今できることは何なのか、恐れずにやってみるようにしたいです。
- ・初めて学ぶ内容が多く、目から鱗の講演だった。栄養学以外の学びも必要だと改めて感じた。
- ・1人配置で仕事を進めて行く上でのメンタル面で、前向きな気持ちになりました。自分の判断は間違っていなかったと思える節があり、後押しされました。
- ・「計画的偶発性理論」を活かせる心構えが持っておこうと思った。特に、交渉の基本的な妥協点が「3割できたら良い」に設定したら、気持ちが楽になる気がします。
- ・今まで、栄養士業務については栄養士間での相談じゃないと解決できないと思ってしまっていたのですが、他職種の違う視点で意見をもらうことにより、方向性が見えてくることも多々あるのではないかと、ということに気がつきました。視野を自ら狭くしてしまっていたのかなと思います。もっと周りを見ながら、視野を広げて仕事をしていきたいと思います。また、計画的偶発性についても、気付きになりました。今置かれている状況も、考え方によってはスキルアップにつながるのだと思うと、とてもポジティブな気持ちになりました。
- ・私にとって必要なスキル、交渉力をたかめるためにアサーションについての本を読んでいたの、話はごもつともなことだと感じた。またもし少し若い時に先生の話聞いていればもう少し仕事で悩んでいることがスムーズに進められたかもしれないと思った。
- ・1人や2人だけど、考え方で何とでもなると言うこと。人によって差が大きいのは、やっぱりって思いました。

別記4 グループワーク②についての意見（自由記載）

- ・今後のプランについて、他の方の話聞きより具体的になりました。積極的に活動したいと思います。
- ・新任期の方々中心のグループでディスカッションさせていただきましたが、様々なご意見や思い等を聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・事前課題に沿っての進行ではなかったのですが、私はキャリアプランシートを上手く作成できなかったり、いろいろな方のお話を伺ったあとのディスカッションだったので、そのやりかたが話しやすかったです。ありがとうございました。
- ・発表するテーマについて、予め各人が内容を考えて発表出来る体制にしておければ更にスムーズに意見交換が進むと思いました。
- ・win-winの関係を目指すために、交渉力のスキルも必要だと思いました。
- ・楽観性を伴った業務への心構えや実行の仕方を見せてもらった。
- ・管理栄養士一人ひとりそれぞれの個性があり、バックグラウンド・強み・自分らしさも全く違うので、ロールモデルを探す前にまずは「自分」のを知ることが大切だと思います。ぶれない「自分らしさ」を持っていれば、他の職種や他の管理栄養士と比較して悲観的なこと

も少なくなると思います。そのためには栄養関係に限定しない自己研鑽と目標の見える化をすることが必要だと日々考えています。

- ・見える化に努力致します。
- ・今後の話だけでなく、どの研修会に参加しても感じるのですが、自主研修は参加者の皆さんの前向きさ、向上心、困難な仕事をどう変えて行くのかという課題に立ち向かう姿に、自分も頑張ろうと励まされます。いろんな話が聞けて嬉しいです。ありがとうございます。
- ・目標達成3割を目指し、気負いせず目の前の与えられた業務に取り組んでみようと前向きな考え方を持つことができた。欲を言えば、グループのみんなでもっと意見交換したかった。
- ・自分の業務分野以外のことも知れて、勉強になりました。全国の行政栄養士の皆様と有意義な情報交換の時間になりました。
- ・業務の見える化をどこまでできるかは、保健業務全般で大事なことだと思っています。今の立場では、自分が見せるのではなく、見せる場づくりも考えないといけないと思いました。
- ・自分が今後、どのような働き方をしたいか、どうなっていきたいか、そのために今後どう働いていけば良いか、改めて考えるきっかけになりました。皆さん具体的な目標を掲げていて、刺激になりました。
- ・グループワークでは栄養業務を見える化し、少しでも栄養士の活動を評価していくのが大切かなと感じた。
- ・〇〇〇への働きかけについてのアドバイスをいただけたこと。まだ出来ていませんが連絡先を交換できたこと。繋がりたいと思いました。
- ・同じ立場の方の、目指す将来性を聞いて、それもいいなと、自分の将来性にも真似したくなるものばかりであった

別記5. 厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方についての意見（自由記載）

- ・保健師ばかり厚労省に出向していると思っていたので、先輩の話は貴重だった。
- ・環境が違えば、学ぶことや感じることも違うということを再認識することが出来ました。ありがとうございました。
- ・厚生労働省で栄養の主流化に向けて保健分野にとどまらず、産業振興等も含めた多角的な視点や自治体内外の様々な関係者と連携し頑張って進めてきたことがわかりました。ありがとうございました。
- ・内容に関係なく恐縮ですが、とてもかっこよくてまぶしかったです。
- ・厚労省での業務内容について知ることができ、参考になった。講師の方の話し方も聞きやすく、スライド内容のまとめ方もわかりやすかったので、今後参考にしたいと思う。
- ・でも、いったいいつ、勉強しているのだろう？と思いました。恐らく仕事も忙しいだろうに。
- ・他職種連携により、視野が広がることで、施策づくりのヒントになっていることは、明後日からの業務から、できることとして、他職種とのコミュニケーションを図ることからやってみようと思いました。貴重なお話、ありがとうございます。
- ・目指すことから逆算して、事業を進める考え方に対する、強さの違いを感じた。与えられた職務に真摯に向き合う事の大切さをありがとうございました。
- ・一つ一つを的確に進めていくことの必要性を感じました。
- ・主査が学んだこととして挙げていたことは、自分の普段の業務に通じるものばかりだなと感じました。大変参考になりました。
- ・他職種との連携が組織が大きくなればなるほど必要と再確認した。
- ・機会があれば、自治体と省庁の業務や意識の違いについて伺いたいです。

別記6. 本研修会へ意見や改善点等、自由にお書き下さい（参加動機も含む）（自由記載）

- ・日本栄養士会研修の際に本研修を知り、参加しました。
- ・公衆衛生実務研修会での御案内がきっかけで、その場で参加を申し込みました。参加対象は遠隔地域かつ一人職種一人配置ということで、まさに自身の環境だと思いました。対象人数が少

なかったのが最初は参加を躊躇しましたが、思い切って申し込んでよかったです。このような研修会を開催いただき、また意見交換の機会もいただき大変ありがたく思います。〇〇先生のファシリテートも大変勉強になりました。

- ・グループ分けが経験年数や条件（1人配置）ごとで分けられていたのが大変良かった。また、ファシリテーターや研究員がグループに入ること、グループワークが非常に進めやすかった。
- ・事前課題のキャリアシートに沿って進めていただき、全体で共有できるとよりよかったですと思う。それにより、「〇年ころになるとこういう仕事を任せてもらえるようになる」や「産休育休中は〜だった」、「行政栄養士でもこんな仕事ができるようになる」など、経験が浅い人たちのロールモデルを見つけられる機会になると思う。また、強みや弱み、やりがいを感じるとき（点数が高いとき）などが共有できると、仲間意識（職場では一人だが、周りに仲間がいるという安堵）が一層芽生えると思う。
- ・参加した動機もきっかけも、栄養士会の研修会に参加したことからです。特に動機は、ずっと公衆衛生分野で働いている栄養士ばかりでないことを、ご存じなのかな？ご存じでないなら、伝えたいと思いました。・事前課題を拝見して、これまでしっかり振り返って来なかった自身のキャリアに向き合う大切さを感じました。・研修についてこれまでは同じ栄養士と言っても、病院や児童福祉など福祉は公民がいて殆ど民です。公でも市教委にも府費と市費がいます。公衆衛生は公だけで統一されて国、都道府県、政令、中核、市町村とあります。これを活かして研修会を統一できないものでしょうか？と強く思いました。是非ぜひお願いします。・とても学びになりましたし、ひらめきも得ました。ありがとうございました。・提出が締め切りを過ぎてしまいました。申し訳ありません。どうぞよろしくお願いします。
- ・ファシリテーターの先生が全ての意見を肯定していて、実際に肯定されるってこういうことか、とすごく勉強になりました。参加して良かったです。ありがとうございました。
- ・意見交換で、管理栄養士の業務の見せ方やアピールの点で、〇〇市が保健課専用のSNSの活用の件で、周知方法や評価について、深く聞きたかったです。可能でしたら、回答をお願いします。
- ・遠隔地中心の研修を開催くださりありがとうございました。貴重な体験をさせていただきました。zoomでも十分ディスカッションが出来たと感じておりますが、対面開催だともっともっとコミュニケーションがとれるのかなとも思いましたので、是非、機会がありましたら北海道でも対面開催していただければと思います。同じ北海道でも根室市と札幌市はとても離れていますが、その時は是非参加させていただきます。ありがとうございました。
- ・過去の所属の上司からのすすめで参加しました。
- ・学会発表がゴールでなく、上司にまとめて見せる場を設けること。認めてもらえるために頑張りたい
- ・研修会、無料で受講させていただきありがとうございます。年数が同じくらいの方のお話、とても参考になりました。職場内ではなかなか打ち明けられない悩みを聞いてもらえるのはとても嬉しいですし、今回はGWにてそのテーマで皆さんの意見も聞けたのでとてもよかったです。
- ・研修会の開催、ありがとうございました。今の環境もポジティブに捉えると、自ら学んで資質向上できる良いきっかけになるのだということに気づけました。また、目標が曖昧だったからこそ不安に感じてしまう部分も多かったのかもしれないと考えました。講師の先生、ファシリテーターの先生方のお言葉もとてもありがたかったです。参加させていただき、ありがとうございました。
- ・行政で管理栄養士として働きはじめて2年目になり、町民にとって私の存在は意義があるのか、実施している事業は前例踏襲がほとんどで本当に町民の利益になっているのかについて悩むことが増えたのが、今回研修会へ参加したきっかけの1つです。研修会への参加により、幅広く色々な知識を身に着ける必要性や完璧を目指そうとしないこと、また逆に1人職場の立場をメリットとして考えること等を学ぶことができ、大変有意義な研修会でした。
- ・今回は貴重な研修の枠で受講させていただきありがとうございました。ファシリテーターの先生が1グループに1人ついてくださったので、とてもスムーズで、先生から勉強させていただ

くこともできました。この研究は、参加された受講者の数年後の評価等はするのでしょうか？今回の研修で得たことから、日々の業務に落とし込んでいきたいと思います。ありがとうございました。

- 今回は上司からご助言いただき、県代表として自主勉として参加させていただきました。現在当県に人材育成プログラムが策定されていないため、参考にして策定に向けて動いてかなければと思います。
- 今回出会った行政栄養士の皆さまとは今後も仲間、同志としてつながり続け、お互いに励まし合い高め合えればと思います。是非、メーリングリストなど定期的につながる環境整備を期待したいです。
- 思いついて参加できてよかったです。自分だけでなく、他の市町の栄養士がどう考えているかも聞いてみたいと思いました。
- 私と同じような悩みを持っている人が他にもいることが分かって、一人じゃないんだと思いました。ありがとうございました。
- 人材育成プログラムが確立されていないため、このような研修会を活用していきたいと思いました。今後、経験を積んでいき、いつか人材育成に携わる時が来たときに、役立つことがたくさんありました。ありがとうございました。
- ○○県の市町栄養士のための会があります。ここ最近は zoom にて研修をしており、現在役員となり研修企画をしております。このような研修会が開催できたらと感じました。
- 入庁と同時にコロナ禍で、全国規模の研修会が出来なかったため、今回はとても貴重な研修会でした。ありがとうございました。特に、県職員（○○県の場合）だと数年に1回の採用しかないため、新任期栄養士対象の研修会に参加しても市町ばかりで、なかなか仕事の困っていることを共有できず、不安が解消されない数年間だったので、今回同じ保健所栄養士とお話できたことは、大変ありがたかったです。
- 有意義な研修をありがとうございます。今後、可能であれば、食改、糖尿病重症化予防、災害対応、一体的実施、母子保健などテーマを絞ってこのような研修会を実施していただけたらとても嬉しく思います。保健所圏域外の栄養士の方と情報交換ができる機会がないので、非常にありがたかったです。

参考1 研究班独自のホームページ上に公開した募集要項

新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会：遠隔対応の実施について (参加者募集)

本研究班がこれまで検討してきた「新しい自治体栄養士養成プログラム試行研修会：遠隔対応」の参加者を募集致します。

1. 日 時 2023年3月4日(土) 13:00～16:40
2. 開催方法 Webを活用した双方向による遠隔対応研修
3. テーマ 10年後に目指す姿を達成するための新しい自治体栄養士育成プログラム
(遠隔対応による試行研修会)
4. 内 容
 - ・講演Ⅰ：「新しい自治体栄養士養成プログラム～
経験年数に応じて身につけたいこと」ならびに関連情報の提供
 - ・グループワーク①：「日頃の業務で困っていること」・発表
 - ・講演Ⅱ：「組織と仕事の進め方」
 - ・グループワーク②：「今後どのような働き方をしたいか」・発表
 - ・指定発言：「厚生労働省に出向して学んだ施策づくりの進め方」
 - ・まとめ
 - ・アンケートへの回答
5. 主な対応者 公衆衛生領域を中心とした自治体栄養士養成プログラム開発のための研究班
班員・研究協力者 ほか
6. 参加費 無料
7. 募集人数 市町村(保健所設置市を除く)もしくは保健所に勤務している管理栄養士・栄養士35名
8. 参加登録の締め切り 2023年2月22日(水) 16:00

参加を希望される方は、事前に以下のボタンを押して、申込み画面よりお申し込みください。
参加が確定した方には、ご登録いただいたメールアドレスに参加のためのURL等ならびに事前課題についてご連絡致します。

なお、参加希望者が募集人数を超えた場合には、次の条件を満たす方を優先します。

- ① 離島の市町村や保健所に勤務している方、ならびに、都道府県庁所在地に移動するため最も速達な手段を用いても陸路で概ね2時間以上を要する市町村(保健所設置市を除く)や保健所に勤務している方
- ② 現在勤務している市町村もしくは保健所における管理栄養士等の配置が1人のみである場合

